

# 2020

## 京都開催の国際会議

2020.1.1~2020.12.31

令和3年6月発行

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー  
Kyoto Convention & Visitors Bureau

# INDEX

はじめに	01
本国際会議統計に関して	02
<b>1</b> 2020年に京都で開催された国際会議<概要>	03
1. 京都市域	03
2. 京都府域（京都市域を除く）	03
<b>2</b> 2020年に京都で開催された国際会議<詳細>	04
1. 京都市域内開催分	
〔1〕 年別 開催実績	04
〔2〕 会場別 開催件数（上位）	04
〔3〕 主要都市 開催件数	04
〔4〕 月別実績表	05
〔5〕 過去の月別 開催件数（京都市域分 / 全国）	05
〔6〕 総参加者数別 開催件数	06
〔7〕 海外参加者数別 開催件数	06
〔8〕 国内参加者数別 開催件数	06
〔9〕 参加国数別 開催件数	07
〔10〕 開催日数別 開催件数	07
〔11〕 分野別 開催件数・構成比	07
2. 京都府域内開催分（京都市域除く）	07
<b>3</b> 国際統計との比較	08
<b>4</b> 京都における新型コロナウイルス感染症拡大による MICE 市場変化（概観）	09
<b>5</b> 新型コロナウイルス感染症拡大以降の主な出来事と 当財団の感染症対策の取組について	11
MICE サポートサービス、京都 MICE 基金のご案内	14
京都文化交流コンベンションビューロー主な事業内容	15
京都文化交流コンベンションビューロー概要	16

# はじめに

まずはじめに、このたびの新型コロナウイルスの感染拡大により、かつて経験したことがない厳しい状況に置かれておられる皆様方に心よりお見舞い申し上げます。早期にこの事態が収束することを心から願っております。

京都は、2013年に日本のMICE誘致をけん引する「グローバルMICE都市」として選定され、当財団は、これまでから、京都府・京都市・京都商工会議所とともに、オール京都体制で積極的にMICEの誘致に取り組んで参りました。

その結果、2019年の統計においては、JNTO(日本政府観光局)及びICCA(国際会議協会 International Congress and Convention Association)両基準の国際会議開催実績において、過去最高の数値を記録し、「京都市MICE戦略2020」で掲げた目標である世界順位35位、ならびに外国人参加者比率国内1位を達成することができました。

しかし、2020年におきましては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、緊急事態宣言の発出や海外からの入国制限、大型イベントの開催制限等の影響を受け、多くの国際会議がオンライン開催や中止・延期となり、2020年に京都で開催された国際会議の件数は、31件と前年から大きく減少しました。

こうした中、当財団では、コロナ禍にあってもMICE主催者や参加者、地域の方々の安心・安全を確保するとともに京都らしい満足度の高いMICEの誘致・開催を目指し、その指針となる「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」の策定や、補助金の拡充・新設など、安心・安全で地域に貢献できる、京都らしいMICEを開催いただけるよう努めているところです。

2021年3月には、この「MICE京都モデル」を尊重いただきながら、徹底的な感染症対策を取り「第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都 kongress)」が国立京都国際会館において開催されました。世界の多数の国がオンラインで参加できるハイブリッド形式での会議運営が行われ、オンラインを含め152か国約5,600名が参加、ウィズコロナ時代における全国で初めての大規模な国際会議として成功を収めました。

今後とも、延期あるいは中止になったMICE案件のフォローを怠ることなく、また会員企業・団体の皆様と、京都府・京都市・京都商工会議所や、国立京都国際会館、京都市勧業館みやこめっせ、京都府警、京都大学等各大学などのステークホルダーの皆様との連携をさらに強化するとともに、良質な国際会議の誘致、安心・安全な開催の支援により一層努めてまいります。

本統計は、2020年(1~12月)に京都で開催された国際会議の開催実績であり、是非ご高覧いただきましたうえ、京都における国際会議開催の現況についてご理解を深めていただければ幸いです。

最後に、本統計の作成にあたり各方面の関係者の皆様方より多大なるご理解とご協力を頂きましたこと、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年6月

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

# 本国際会議統計に関して

- ◆ 本統計は2020年(1～12月)に、京都市域内で開催された国際会議と京都市域を除く京都府域で開催された国際会議の2区分を記載しています。  
統計収集にあたっては(公財)京都文化交流コンベンションビューローが京都の各会議施設・大学・研究機関・各種団体並びに会議主催者のご協力を得て作成しました。
- ◆ 本統計における分析項目は日本政府観光局(JNTO)から発表された「2019年国際会議統計」と「2019年の京都市域で開催された国際会議データ」も参考にしています。
- ◆ 京都で開催された国際会議(P.03～07)における数値の取扱いについて  
2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ハイブリッド開催やオンライン開催など、さまざまな会議形態が存在するため、下記の通り整理し、その中で基準を満たすものを計上しています。

現地開催	以下の①～④の全てを満たす会議を国際会議として計上(JNTO 基準) ① 主催者：「国際機関・国際団体(各国支部を含む)」又は「国家機関・国内団体」 ② 参加者総数：50名以上 ③ 参加国数：日本を含む3カ国以上 ④ 開催期間：1日以上
ハイブリッド開催	・ 現地開催とオンライン開催を併せた開催形態 ・ 現地参加者が、「現地開催」の基準を満たす会議のみ件数計上し、参加人数は現地参加者数のみを計上
オンライン開催	・ オンラインのみで開催される開催形態 ・ 現地参加者が存在しないため計上しない

- ◆ 国際会議統計基準について  
国際会議統計に関しては、主に
  - ・ JNTO (日本政府観光局)
  - ・ ICCA (国際会議協会：International Congress and Convention Association)
  - ・ UIA (国際団体連合：Union of International Associations)
 から発表される統計数値が参考にされるケースが国内では一般的です。  
統計手法や基準が各々異なるため、比較できないことに留意しながら各データを活用する必要があります。

団 体	国際会議基準(抜粋)
JNTO(日本政府観光局)	以下の①～④の全てを満たす会議 ① 主催者：「国際機関・国際団体(各国支部を含む)」又は「国家機関・国内団体」 ② 参加者総数：50名以上 ③ 参加国数：日本を含む3カ国以上 ④ 開催期間：1日以上
ICCA (国際会議協会： International Congress and Convention Association)	①開催国について：3カ国以上での持ち回りの開催実績がある会議(2カ国間会議は除外) ②参加者総数：50名以上 ③開催期間：定期的に開催している(1回のみ開催した会議は除外)
UIA (国際団体連合： Union of International Associations)	(1) 国際機関・国際団体(UIAに登録されている機関・団体)の本部が主催又は後援した会議 ①参加者数：50名以上 ②参加国数：開催国を含む3カ国以上 ③開催期間：1日以上 又は (2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議 ①開催国以外からの参加者(外国人比率)が少なくとも総参加者の40% ②参加者総数：300名以上 ③参加国数：5カ国以上 ④開催期間：3日以上

## 1

## 2020年に京都で開催された国際会議 &lt; 概要 &gt;

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言や入国制限、イベントの開催制限等により、MICE開催に大きな影響が出た1年となり、多くのMICEがオンライン開催、中止、延期となったために、京都市域で開催された国際会議件数は、前年比92.7%減で7年ぶりに減少した。

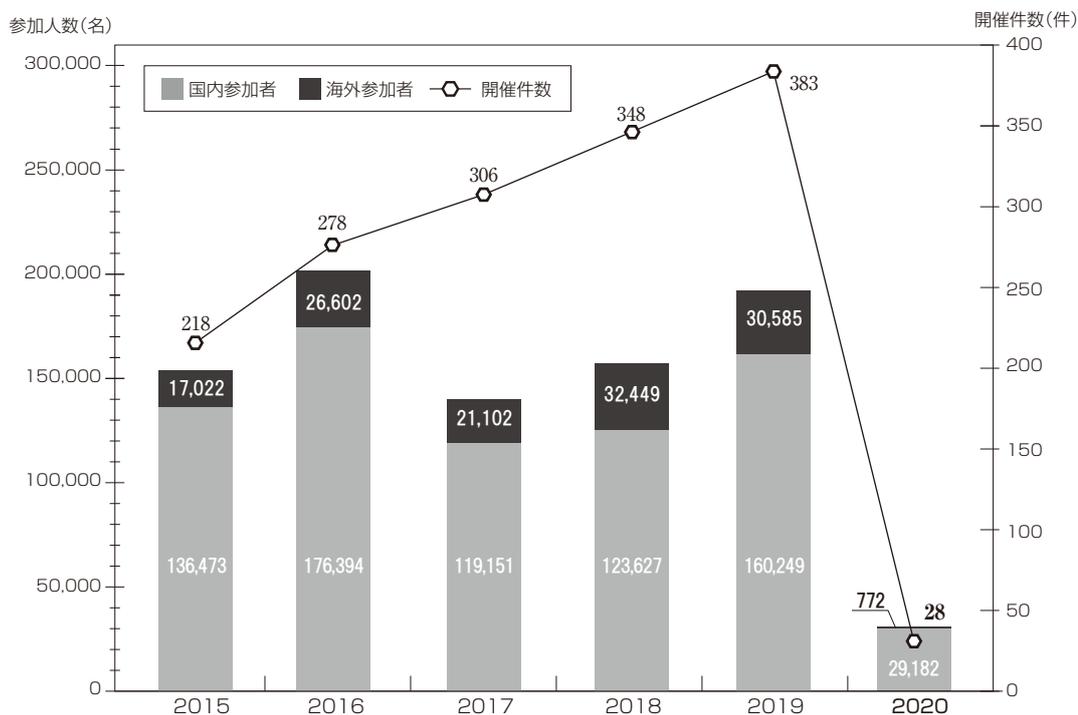
しかしその一方でオンライン開催や、現地開催とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催への変更など、安心・安全を優先した新しいMICE開催スタイルが生まれた年でもあった。

また、当財団では新しい補助制度の設立や、感染拡大予防と京都らしいMICEのあり方を提案する「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」を策定し、ウィズコロナ時代の安心・安全な新しいMICEの開催をサポートした。

## 1. 京都市域

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比
開催件数	218件	278件	306件	348件	383件	28件	7.3%
海外参加者数	17,022名	26,602名	21,102名	32,449名	30,585名	772名	2.5%
国内参加者数	136,473名	176,394名	119,151名	123,627名	160,249名	29,182名	18.2%
総参加者数	153,495名	202,996名	140,253名	156,076名	190,834名	29,954名	15.7%

## ◆ 年別開催件数及び参加者数(京都市域)



## 2. 京都府域 (京都市域を除く)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比
開催件数	13件	15件	30件	19件	16件	3件	18.8%
海外参加者数	1,374名	1,453名	1,572名	1,097名	1,330名	116名	8.7%
国内参加者数	9,082名	18,458名	13,452名	14,840名	13,786名	162名	1.2%
総参加者数	10,456名	19,911名	15,024名	15,937名	15,116名	278名	1.8%

# 2 2020年に京都で開催された国際会議 < 詳細 >

## 1. 京都市域内開催分

### (1) 年別 開催実績

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
開催件数	137	196	176	202	218	278	306	348	383	28
総参加者数	84,391	114,257	96,020	127,879	153,495	202,996	140,253	156,076	190,834	29,954
海外参加者数	16,093	19,583	15,868	16,484	17,022	26,602	21,102	32,449	30,585	772

### (2) 会場別 開催件数(上位)

施設名	開催件数		海外参加者数	国内参加者数	総参加者数	平均参加国数	
		前年				前年	前年
京都大学(百周年時計台記念館、数理解析研究所、基礎物理学研究所、芝罘会館等を含む)	15	152	255	2,442	2,697	21,051	5.7
国立京都国際会館	5	68	153	26,026	26,179	112,385	8.0
メルパルク京都	2	7	35	465	500	2,078	9.5
ウェスティン都ホテル京都	2	4	230	110	340	3,650	12.0
ザ・プリンス京都宝ヶ池	1	7	3	2,667	2,670	34,170	4.0
コープイン京都	1	3	58	10	68	268	7.0
京都ガーデンパレス	1	2	10	40	50	627	4.0
京都府立京都学・歴彩館	1	2	4	66	70	1,344	5.0
ホテル京都エミナース	1	0	27	23	50	0	3.0

※複数の会場(施設)で開催されている場合は、開催件数を各施設1件ずつ計上している。※前年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」分析データより。

### (3) 主要都市 開催件数

	京 都	東 京	横 浜	名 古 屋	大 阪	神 戸	福 岡
2011年	137 (4)	470 (1)	169 (3)	112 (5)	72 (8)	83 (6)	221 (2)
2012年	196 (3)	500 (1)	191 (4)	126 (6)	140 (5)	92 (8)	252 (2)
2013年	176 (4)	531 (1)	226 (3)	143 (6)	172 (5)	93 (8)	253 (2)
2014年	202 (3)	543 (1)	200 (4)	163 (5)	130 (6)	82 (9)	336 (2)
2015年	218 (4)	557 (1)	190 (5)	178 (6)	139 (7)	113 (8)	363 (2)
2016年	278 (3)	574 (1)	188 (6)	200 (5)	180 (7)	260 (4)	383 (2)
2017年	306 (3)	608 (1)	176 (6)	183 (5)	139 (7)	405 (2)	296 (4)
2018年	348 (3)	645 (1)	156 (6)	202 (5)	152 (7)	419 (2)	293 (4)
2019年	383 (3)	561 (1)	277 (5)	252 (6)	204 (7)	438 (2)	313 (4)
2020年	28	—	—	—	—	—	—

※「日本政府観光局(JNTO) 2019年国際会議統計」より。

※( )内は全国順位。

※2020年の各都市の開催件数は現在未公表。

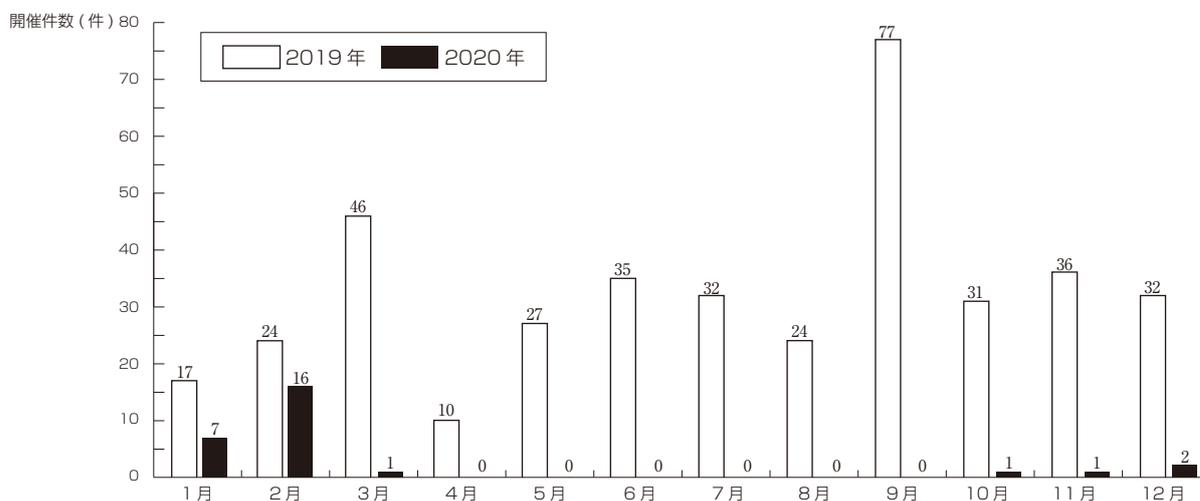
※2015年、仙台 221件(3位)。

## 〔4〕月別実績表

海外からの入国制限が厳しく強化された3月中旬から、ビジネストラックを中心に緩和されるまでの約6か月間は国際会議の開催が完全になくなった。入国制限緩和以降は、ハイブリッド形式で4件開催された。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
開催件数	7	16	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	28	2.3
割合(%)	25.0%	57.1%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	7.1%		
海外参加者数	275	436	25	0	0	0	0	0	0	3	25	8	772	64
国内参加者数	20,154	3,375	75	0	0	0	0	0	0	2,667	1,975	936	29,182	2,432
参加者総数	20,429	3,811	100	0	0	0	0	0	0	2,670	2,000	944	29,954	2,496
平均参加国数	6.3	7.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	6.0	3.0	3.5	

## ◆ 2019年および2020年開催件数(京都市域分)



## 〔5〕過去の月別開催件数(京都市域分 / 全国)

## 1)過去の開催件数：京都市域分

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
京都市域分	2017年	13 4.2%	25 8.1%	26 8.4%	16 5.2%	26 8.4%	27 8.8%	19 6.2%	25 8.1%	29 9.4%	29 9.4%	39 12.7%	34 11.0%	308	26
	2018年	16 4.6%	25 7.2%	37 10.6%	10 2.9%	24 6.9%	36 10.3%	33 9.5%	18 5.2%	38 10.9%	43 12.3%	36 10.3%	33 9.5%	349	29
	2019年	17 4.3%	24 6.1%	46 11.8%	10 2.6%	27 6.9%	35 9.0%	32 8.2%	24 6.1%	77 19.7%	31 7.9%	36 9.2%	32 8.2%	391	33

※合計がP4の(1)年別開催実績の同年の数値と異なるのは、KCVB調べとJNTO調べの誤差の範囲であり、傾向には影響を与えない。

## 2)過去の開催件数：全国

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
全国	2017年	164 5.0%	239 7.2%	338 10.2%	159 4.8%	224 6.8%	270 8.1%	281 8.5%	241 7.3%	368 11.1%	354 10.7%	446 13.5%	229 6.9%	3,313	276
	2018年	174 5.1%	228 6.6%	342 10.0%	183 5.3%	248 7.2%	326 9.5%	292 8.5%	241 7.0%	364 10.6%	392 11.4%	410 11.9%	233 6.8%	3,433	286
	2019年	169 4.7%	221 6.1%	317 8.8%	141 3.9%	285 7.9%	315 8.7%	297 8.2%	311 8.6%	416 11.5%	426 11.8%	484 13.4%	239 6.6%	3,621	302

※「日本政府観光局(JNTO)2019年国際会議統計」より。

2 2020年京都で開催された国際会議 < 詳細 >

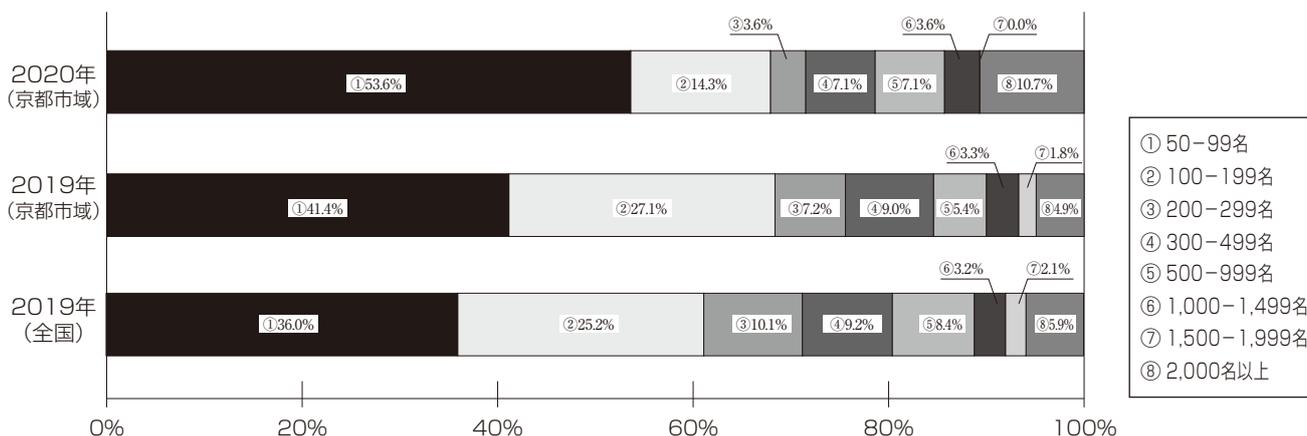
〔6〕総参加者数別 開催件数

国内外から大人数の移動が予定される大型国際会議の多くは、早々に中止や延期等の判断がなされた。

入国制限が緩和された10月以降、国内外からの現地参加を含む会議が徐々に開催され始めたが、イベントの入場制限により、やむを得ず、参加者のオンライン参加へのシフトも多く見受けられ、全ての規模において減少した。

参加者数	50-99名	100-199名	200-299名	300-499名	500-999名	1,000-1,499名	1,500-1,999名	2,000名以上	
2020年	15	4	1	2	2	1	0	3	
割合(%)	53.6%	14.3%	3.6%	7.1%	7.1%	3.6%	0.0%	10.7%	
2019年	162	106	28	35	21	13	7	19	
割合(%)	41.4%	27.1%	7.2%	9.0%	5.4%	3.3%	1.8%	4.9%	
全 国	2019年	1,302	912	364	333	305	117	76	212
	割合(%)	36.0%	25.2%	10.1%	9.2%	8.4%	3.2%	2.1%	5.9%
国	2018	1,176	834	386	337	299	138	53	210
	割合(%)	34.3%	24.3%	11.2%	9.8%	8.7%	4.0%	1.5%	6.1%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。※全国数値は、「日本政府観光局(JNTO)2019年国際会議統計」より。



〔7〕海外参加者数別 開催件数

参加者数	1-9名	10-49名	50-99名	100-199名	200-299名	300-499名	500-999名	1,000-1,999名	2,000名以上
2020年	9	14	3	2	0	0	0	0	0
割合(%)	32.1%	50.0%	10.7%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2019年	115	157	56	26	17	7	9	2	2
割合(%)	29.4%	40.2%	14.3%	6.6%	4.3%	1.8%	2.3%	0.5%	0.5%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。

〔8〕国内参加者数別 開催件数

参加者数	1-9名	10-49名	50-99名	100-199名	200-299名	300-499名	500-999名	1,000-1,499名	1,500-1,999名	2,000名以上
2020年	0	7	11	1	1	2	2	1	1	2
割合(%)	0.0%	25.0%	39.3%	3.6%	3.6%	7.1%	7.1%	3.6%	3.6%	7.1%
2019年	4	110	105	80	19	22	22	4	10	15
割合(%)	1.0%	28.1%	26.9%	20.5%	4.9%	5.6%	5.6%	1.0%	2.6%	3.8%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。

## 〔9〕参加国数別 開催件数

参加国数	3-5カ国	6-9カ国	10-14カ国	15-19カ国	20-29カ国	30-49カ国	50カ国以上
2020年	14	9	3	1	1	0	0
割合(%)	50.0%	32.1%	10.7%	3.6%	3.6%	0.0%	0.0%
2019年	177	71	53	38	30	17	5
割合(%)	45.3%	18.2%	13.6%	9.7%	7.7%	4.3%	1.3%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。

## 〔10〕開催日数別 開催件数

開催日数	1日	2日	3日	4日	5日	6-7日	8日以上
2020年	6	6	10	2	3	0	1
割合(%)	21.4%	21.4%	35.7%	7.1%	10.7%	0.0%	3.6%
2019年	106	92	84	43	43	17	6
割合(%)	27.1%	23.5%	21.5%	11.0%	11.0%	4.3%	1.5%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。

## 〔11〕分野別 開催件数・構成比

分 野	2020年		2019年		全 国	
	開催件数	割合(%)	開催件数	割合(%)	2019年	2018年
科学・技術・自然	14	50.0%	192	49.1%	41.6%	40.6%
医学	8	28.6%	47	12.0%	17.4%	20.5%
芸術・文化・教育	3	10.7%	91	23.3%	13.3%	13.0%
政治・経済・法律	2	7.1%	16	4.1%	12.0%	11.0%
社会	1	3.6%	29	7.4%	5.8%	5.9%
宗教	0	0.0%	6	1.5%	0.3%	0.2%
産業	0	0.0%	4	1.0%	4.5%	4.8%
運輸・観光	0	0.0%	3	0.8%	0.9%	0.8%
社交・親善	0	0.0%	1	0.3%	0.9%	1.4%
スポーツ	0	0.0%	1	0.3%	1.0%	0.6%
その他	0	0.0%	1	0.3%	2.2%	1.2%

※2019年数値は、「2019 京都開催の国際会議冊子」より。

※全国数値は、「日本政府観光局(JNTO) 2019年国際会議統計」より。

## 2. 京都府域内開催分(京都市域除く)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催件数は前年比81.2%減となった。開催された3件は1～2月に開催されたもので、3月以降に開催予定だった会議は、全てオンライン開催や中止、延期へ変更となった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比
開催件数	13件	15件	30件	19件	16件	3件	18.8%
海外参加者数	1,374名	1,453名	1,572名	1,097名	1,330名	116名	8.7%
国内参加者数	9,082名	18,458名	13,452名	14,840名	13,786名	162名	1.2%
総参加者数	10,456名	19,911名	15,024名	15,937名	15,116名	278名	1.8%

# 3 国際統計との比較

## 1. ICCA 統計(2020年)での各都市ランキング

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、例年発表されているランキングは実施されません。

## 2. UIA 統計(2019年)での各都市ランキング(2020年統計は現在未公表)

<2019年世界都市上位10位ランキング>

順位	都市名	開催件数
1	シンガポール	1,205
2	ブリュッセル	963
3	ソウル	609
4	パリ	405
5	ウィーン	325
6	東京	305
7	バンコク	293
8	ロンドン	217
9	マドリッド	215
10	リスボン	204

※上記の数値は、UIAが設定する統計基準に基づいたデータを、日本政府観光局(JNTO)が順位付けしたものとなる。  
(基準の詳細はP2を参照)

<2019年国内都市上位ランキング>

順位		都市名	開催件数
世界	国内		
6	1	東京	305
25	2	京都	81
-	3	横浜	31
-	4	名古屋	25
-	4	大阪	25
-	6	神戸	24

※世界順位は判明している都市の順位のみを記載。

## 4

## 京都における新型コロナウイルス感染拡大による MICE 市場変化(概観)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、2020年に京都で「開催された」あるいは「開催される予定であった」国際会議に極めて大きな影響を与えた。

しかしながら、同時にその困難な状況に応じて、主催者をはじめとした会議関係者の創意工夫により、安全・安心を前提としてその開催手法が大きく変貌を遂げた年でもあった。

その2020年全体を、国際会議の大部分が開催される京都市域での動向や傾向を基に概観した。

但し、本章における数値は、あくまでも2020年に「開催された」あるいは「開催される予定であった」と確認できた京都市域の国際会議（247件）が対象となるため、各数値は全体傾向の参考値として取り扱いたい。

## 1. 2020年国際会議の動向（概観）

- 2月までは通常開催されていたものの、乗客の感染が確認されたクルーズ船の入港や国内で初めて感染者の死亡が確認されたことを皮切りに国内でも感染が拡大し、2月末ごろから会議開催による感染拡大に危機感を抱いた会議主催者が、徐々に中止や延期の検討・判断をする傾向が強まった。
- 3月にWHOがパンデミックと認定し、また、入国制限厳しく強化されると国際会議の通常開催が益々難しくなり、オンライン導入の検討・準備への急遽の対応が困難であったことから、中止を余儀なくされた会議が3月に多く発生した。
- 4月7日に第1回目の緊急事態宣言が発令され、5月25日には一旦解除されたが、感染収束への見通しが依然不透明なこの時期、やむを得ずオンライン開催への切り替え、2021年以降への延期等の判断をする会議が多くみられた。
- 6月19日には都道府県をまたぐ移動の自粛要請が全国で緩和され、10月には全世界からの入国制限が緩和されたことにより、10月以降は現地開催とオンライン開催が組み合わさったハイブリッドでの会議が開催され始め、安全・安心な開催に留意したウィズコロナ時代に相応しい会議手法の導入が主流となってきた。

## 2. 「開催された」あるいは「開催される予定であった」会議への影響

### ◆対象となる 247 件の動向(京都市域)

	件数	現地開催	ハイブリッド開催	オンライン開催 に変更	2021年 以降に延期	中止
京都市域	247	24	11	93	56	63

### ◆対象となる 247 件の動向 月別(京都市域)

	件数	現地開催	ハイブリッド開催	オンライン開催 に変更	2021年 以降に延期	中止
1月	7	7	0	0	0	0
2月	19	16	0	0	1	2
3月	17	1	0	1	1	14
4月	7	0	0	1	5	1
5月	14	0	0	2	6	6
6月	25	0	0	7	11	7
7月	16	0	0	7	1	8
8月	14	0	0	7	3	4
9月	39	0	0	20	10	9
10月	26	0	2	13	7	4
11月	43	0	5	20	11	7
12月	20	0	4	15	0	1

※2020年に「開催された」あるいは「開催される予定であった」と確認できた国際会議(247件)が対象となるため、各数値は全体傾向の参考値として取り扱いたい。  
 ※延期分は、延期前の日付で日数をカウントしている。  
 ※現地開催とハイブリッド開催の合計が、P.3の数値と異なるのは、現地参加が50名以上および現地参加が日本を含む3か国以上のハイブリッド開催のみを国際会議として計上しているためである。  
 ※2020年末時点の情報につき、延期になった会議がその後中止等へ変更される場合もありうる。

## 3. 国際会議基準を満たさない国内参加者のみの会議

国際会議基準を満たさない国内参加者のみで開催される大型国内会議は、主催者により感染症拡大予防対策が十分に施されたうえで、緊急事態宣言解除後に国立京都国際会館や京都市勤業館みやこめっせなどで着実に開催された。

また、当財団が新設した「安心・安全なMICE開催支援(主催者向け)補助金」を活用するなど、ハイブリッド形式にて開催された現地参加500名以上の会議が多数開催され、京都でのMICE振興に大きく寄与した。

### <開催された主な会議>

- ・第57回日本リハビリテーション医学会学術集会(会場：国立京都国際会館)
- ・第22回日本医療マネジメント学会学術総会(会場：京都市勤業館みやこめっせ、ロームシアター京都 他)

## 5

新型コロナウイルス感染症拡大以降の主な出来事と  
当財団の感染症対策の取組について

## 1. 新型コロナウイルス感染症拡大以降の主な出来事

2020年1月	国内で新型コロナウイルス感染者確認
2月	3日 クルーズ船内で感染者確認、横浜港に停泊
3月	11日 WHO がパンデミックと認定
	24日 オリンピック延期決定
4月	7日 緊急事態宣言 発出(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県)
	16日 緊急事態宣言 全国に拡大(先行の7都府県+ 京都府、北海道、茨城県、石川県、岐阜県、愛知県を特定警戒都道府県に指定)
5月	4日 緊急事態宣言 5月31日まで延長
	14日 緊急事態宣言 39県解除(京都府、北海道、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、 大阪府、兵庫県は継続)
	21日 緊急事態宣言 関西解除(京都府、大阪府、兵庫県)
	25日 緊急事態宣言 全国で解除
6月	19日 都道府県をまたぐ移動の自粛要請、全国で緩和
7月	15日 「安心・安全な MICE 開催支援(主催者向け)補助金」等新設 (KCVB)
	22日 Go To トラベル事業開始
9月	25日 10月以降の入国制限緩和(全ての国・地域に条件付きで緩和)
10月	6日 京の修学旅行3密防止対策支援事業申請開始 (KCVB)
	16日 「ウィズコロナ社会における MICE 京都モデル(第1版)」を策定 (KCVB)
12月	25日 変異株の感染者国内で確認
	28日 全ての国・地域からの外国人の新規入国停止

2021年1月	8日 緊急事態宣言 1都3県に再発令(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)
	14日 緊急事態宣言 7府県に再発令(京都府、大阪府、兵庫県、栃木県、岐阜県、愛知県、福岡県)
2月	8日 緊急事態宣言 10都府県延長(京都府、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、岐阜県、愛知県、福岡県)
	8日 MICE 施設(国立京都国際会館メインホール)の3D映像公開 (KCVB)
	27～28日 第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンgres) ユースフォーラム開催に係る支援 (KCVB)
	28日 緊急事態宣言 6府県解除(京都府、大阪府、兵庫県、岐阜県、愛知県、福岡県)
3月	1日 京の修学旅行3密防止対策支援事業(追加募集)申請開始 (KCVB)
	7～12日 第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンgres)開催に係る支援 (KCVB)
	21日 緊急事態宣言 1都3県解除(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)
4月	1日 京の修学旅行3密防止対策支援事業(令和3年度)申請開始 (KCVB)
	12日 まん延防止等重点措置を京都府に適用
	25日 緊急事態宣言 4都府県に再発令(京都府、東京都、大阪府、兵庫県)
	28日 「ウィズコロナ社会における MICE 京都モデル(第2版)」を公開 (KCVB)
5月	12日 緊急事態宣言 2県に発令(愛知県、福岡県)
	16日 緊急事態宣言 3道県に発令(北海道、岡山県、広島県)
	23日 緊急事態宣言 1県に発令(沖縄県)
	28日 緊急事態宣言 9都道府県に延長(京都府、北海道、東京都、愛知県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県)
6月	4日 京都 MICE 基金の創設(KCVB)

## 2. 当財団における新型コロナウイルス感染症対策の取組について

### ◆感染拡大予防対策に係る経費補助の新設・拡充

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した安心・安全なMICE開催を支援するため、感染拡大予防対策を行うMICE施設・主催者への補助制度の新設や、既存の制度についても補助上限額の引き上げ、海外参加者要件の緩和など制度の拡充を行った。

また、京都府内への修学旅行について、密集・密閉・密接を避けた移動及び滞在を確保するための取組みに必要な経費を支援する制度を実施した。

#### (新設・拡充された主な補助金および支援事業)

- 安心・安全なMICE開催支援（MICE施設向け）補助金
  - ・ 補助対象：MICE施設の管理・運営者
  - ・ 対象事業：感染拡大予防対策経費（サーモグラフィー、非接触型体温計の購入等）
- 安心・安全なMICE開催支援（MICE主催者向け）補助金
  - ・ 補助対象：会議、企業ミーティング、インセンティブツアー等の主催者
  - ・ 対象事業：感染拡大予防対策経費（3密回避のための会議室追加、マスクの購入等）
- 大規模コンベンション開催支援助成金
  - ・ 補助対象：学会、会議、総会、大会の主催者
  - ・ 対象事業：会議開催に係る経費
- MICE開催支援（府域）補助金
  - ・ 補助対象：会議、企業ミーティング、インセンティブツアー等の主催者
  - ・ 対象事業：会議開催等に係る経費（一部海外参加者要件緩和）

### ◆「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」の公表

MICE関連事業者や専門家等で構成する「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」検討会議等を通じて、ウィズコロナ社会における、安心・安全かつ京都の魅力を生かしたMICEの誘致・開催に向けた取組について検討し、検討会議での意見や「ウィズコロナ社会における市民と観光客の安心・安全の確保に向けたアドバイザーチーム」の助言等を踏まえ、「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル(第1版)」を令和2年10月に策定した。

その後、令和3年3月7日（日）～12日（金）に国立京都国際会館で開催された、コロナ禍における日本初の大規模国際会議である「第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRESS）」で実際に取り組まれた事例等を追加し、第2版として発表した。

また、本モデルを国内外の幅広い層に周知し、活用いただくため、英語版を作成するとともに、MICE主催者・参加者の皆様に向けた本モデルの紹介映像を作成した。

本モデルは、感染拡大防止の徹底に向け、MICE主催者だけでなく、参加者の皆様に留意いただきたい内容について、京都訪問前からMICE開催後までの一連の流れに沿って紹介するとともに、伝統産業製品を活用した衛生対策等、主催者・参加者の満足度を高め、地域貢献効果も期待できる、京都らしいMICE開催の在り方について提案している。

# MICEサポートサービスのご案内

## 誘致中～開催中までのサポート

### ◆各種助成金制度の活用

国際会議からミーティング、インセンティブまで、MICE のイベントタイプ、規模にあわせた助成金制度や、イベント記念品、通訳ガイドなどの費用を補助する制度など、様々な助成金制度をご用意しております。

### ◆京都PR映像の貸出

3 パターンのイメージ映像から、用途に合わせた使用が可能です。

### ◆京都の写真画像の貸出

会議ウェブサイト、会議案内チラシ、プログラム等に活用できる京都の写真画像を貸出します。  
『京都イメージバンク』 <https://kyoto-imagebank.com/ja>

## 開催決定前のサポート

### 1 誘致用京都 PR ツールの提供

絵はがき、舞妓ピンバッジなどの誘致用 PR グッズを提供いたします。



### 2 京都 PR バナーの貸出

京都開催を PR するためのバナースタンド一式を貸出いたします。



### 3 コンベンション主催者の視察受入れ支援

### 4 ビッドペーパー、プレゼン資料の作成支援

## 開催決定後のサポート

### 1 便利な観光地図を提供

### 2 お得な地下鉄・市バス一日乗車券の発売

通常 900 円の地下鉄・市バス共通 1 日乗車券が破格の 700 円で購入いただけます。フリーデザインも可能！

### 3 ユニークなレセプション会場の案内

京都らしい施設・会場をご紹介します！

### 4 府市民向け公開講座の広報支援

府市民向け公開講座を開催されるにあたり、広報に協力いたします。(チラシの配架協力)

### 5 京都伝統産業製品の貸出

京真田紐を用いたネックストラップや会議装飾となる京扇子などの伝統産業製品を貸出します。

### 6 京都らしいエクスカーショングッズのご紹介

寺院・神社での体験など、京都らしい特別なエクスカーショングッズプログラムをご紹介します。

## 「京都MICE基金」のご案内

KYOTO  
MICE FUND  
京都 MICE 基金

「京都 MICE 基金」は、京都の多彩な文化・芸術や、豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承・活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及び SDGs 達成に寄与する取組みを支援いたします。

#### 支援先について

- 京都の伝統文化、祭事、芸能、伝統工芸の継承や保全、活用等促進に係る取組
- 京都の文化財、歴史的建造物などの保全、活用等促進に係る取組
- 京都の環境保全に資する取組
- 文化芸術都市ならではの取組
- 京都が目指す SDGs 達成に資する取組

#### 寄附方法

##### クレジット

京都 MICE 情報サイトの専用ページから。  
<https://meetkyoto.jp/ja/kyoto/fund>

##### 銀行振込

三菱 UFJ 銀行 京都支店 普通 1281483  
公益財団法人  
京都文化交流コンベンションビューロー  
理事長 村田 純一

##### 募金箱

MICE 関連施設に募金箱を設置。  
設置場所は基金専用サイトで  
ご確認ください。

#### 寄附控除について

当財団に対する寄附金には、寄附金控除が適用されます。また、京都府市民の方からの寄附金は、個人府民税・個人市民税の寄附金税額控除の適用対象とされます。

京都 MICE 基金に関するお問い合わせ

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー  
TEL 075-353-3053 / [micefund@hellokcb.or.jp](mailto:micefund@hellokcb.or.jp)



# (公財)京都文化交流コンベンションビューロー

## 主な事業内容

### 国際観光コンベンション事業(公益目的事業)

#### コンベンション (MICE) 事業

##### ■ MICE 関連情報の調査・収集・啓発

- ① 関係団体への加盟・参加により MICE 関連情報を収集
- ② 大学・学術団体・学会へのコンベンション情報収集・啓発活動の強化
- ③ 国際会議統計調査
- ④ MICE 振興に関わる課題解決策の推進
- ⑤ 「京都スマートシティエキスポ」への事業協力等を含めた 関西文化学術研究都市推進への参画
- ⑥ 「ウィズコロナ社会における MICE 京都モデル」の周知

##### ■ プロモーション事業

- ① 内外ネットワーク(情報収集力)の強化
- ② 政府関連特定会議誘致活動
- ③ 国内外プロモーション活動
- ④ MICE 主催者等の京都視察受入れ
- ⑤ 京都市「大規模国際コンベンション誘致支援助成金」の活用

##### ■ MICE 開催支援事業

- ① 政府関連特定会議等の京都開催の運営協力
- ② MICE 開催支援に係る京都市の助成制度の活用
- ③ 京都市「京都らしい MICE 開催支援補助制度」の活用
- ④ 京都府「京の修学旅行 3 密防止対策等支援事業」の活用
- ⑤ 京都府「京都府 MICE 開催支援助成制度」の活用
- ⑥ 「京都 MICE 基金」の設立と運用
- ⑦ オフサイト・レセプション等の企画・提案
- ⑧ 各種開催支援サービス制度の運用及び拡充

##### ■ 広報宣伝事業

- ① メールマガジン、ホームページによる京都 MICE 関連情報の発信
- ② 国内外の MICE 専門誌等への情報提供及び取材活動への支援
- ③ 広報発表等を通じた MICE 振興の意義や効果などの関係業界・府市民への啓発

#### 京都版 DMO 主体事業(京都市観光協会との共同事業)

##### ■ インバウンドプロモーション

- ① 海外情報拠点管理運営事業
- ② 京都市域内統計収集・分析強化(データ月報)
- ③ ウェブサイトの運用事業
- ④ ソーシャルネットワークの運用事業
- ⑤ 海外メディア取材誘致・露出強化事業
- ⑥ オンラインによる旅行博・商談会事業
- ⑦ 宿泊施設向け多言語コールセンター運営事業
- ⑧ 免税対応支援事業
- ⑨ 京都市認定通訳ガイド育成事業
- ⑩ 外国語研修実施事業
- ⑪ 旅館活性化支援事業

### 文化交流発信事業(公益目的事業)

#### 古典の日推進事業

##### ■ 古典の日推進事業

- ① 「古典の日」普及啓発事業
- ② 「古典の日フォーラム」の開催
- ③ 「古典の日朗読コンテスト」の開催
- ④ 古典の日文化基金賞事業

##### ■ 情報発信・広報活動・関係団体との連携等

- ① ホームページによる「古典の日広場」開設
- ② ポスターおよびパンフレット作成等

#### 文化発信事業

##### ■ 京都迎賓館支援事業

- ① 外国賓客のもてなし
- ② 参観支援・啓発関連(講演会など文化発信事業)

##### ■ 京都創生推進フォーラム事業

- ① シンポジウム「京都創生推進フォーラム」の開催
- ② 首都圏における京都創生の発信事業
- ③ 京都創生広報事業(PR ポスター作成等)

##### ■ 京都デジタルミュージアム「京都見聞録」活用事業

- ① 会議場・ホテル等集客施設での上映
- ② 会議主催者や団体等への貸出し

##### ■ 京都観光案内地図「四季彩京都」の発行(年 2 回)

### 共益・収益事業

##### ■ 賛助会員制度の運営

- ① 新規勧誘の促進
- ② 会員に対する情報提供
- ③ 会員の集いの開催

##### ■ 「京都文化振興友の会」の運営

##### ■ 京都迎賓館記念品の企画・販売

### その他の事業(公益目的事業)

##### ■ ホームページの運用事業

##### ■ 会報誌「コンベンションビューロー通信」の発行(年 4 回発行)

##### ■ 関係団体との連携等

「京の七夕」、「時代祭」、「京都花灯路」など オール京都事業への参画

# 概 要

【2021年6月時点】

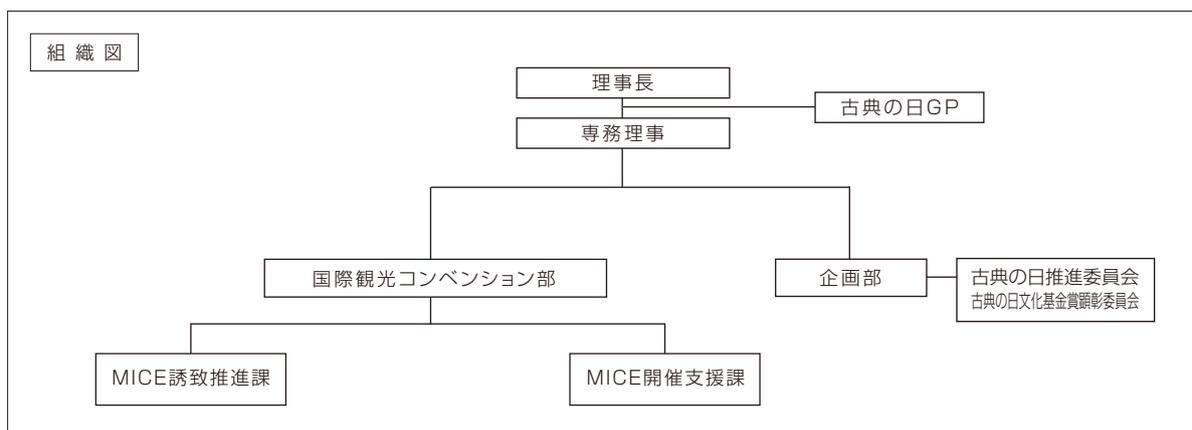
- 1 名 称 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー
- 2 所 在 地 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78 番地 京都経済センター 3 階
- 3 設 立 平成19年1月9日  
※平成23年10月3日付で公益財団法人へ移行登記
- 4 目 的 文化・芸術の普及向上に努めるとともに、国内外のコンベンション誘致及び賓客等の入洛を促すことにより、京都文化を広く世界に発信し、国際的な交流拠点としての「京都」の魅力をより一層高め、活力あふれる新たな「京都」の創造に寄与する。
- 5 事業概要 (1) 京都の文化・芸術等のための事業推進と府内外への情報発信  
(2) コンベンション等の誘致および賓客・海外観光客の招聘、入洛のための事業推進  
(3) その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業

## 6 組 織

- (1) 役員等
  - 名誉顧問 千 玄室 (茶道裏千家大宗匠)
  - 顧 問 西脇 隆俊 (京都府知事)
  - 門川 大作 (京都市長)
  - 評議員会長 柏原 康夫 (㈱京都銀行 名誉顧問)
  - 評 議 員 11 名 (産業・経済・文化・学術・行政等公的団体)
  - 理 事 長 村田 純一 (京都商工会議所 名誉会頭)
  - 副理事長 内田 俊一 (国立京都国際会館 館長)
  - (五十音順) 岡田 憲和 (京都市 副市長)
  - 千 宗室 (茶道裏千家 家元)
  - 田中 誠二 (京都商工会議所 副会頭)
  - 山下 晃正 (京都府 副知事)
  - 専務理事 村上 圭子 (京都文化交流コンベンションビューロー)
  - 理 事 6 名
  - 監 事 中村 健児 (京都銀行協会 専務理事)
  - 植村 幸弘 (京都府信用金庫協会 京都中央信用金庫常務理事)

(2) 賛助会員数 344 会員(企業 / 団体)

### (3) 事務局



2020 京都開催の国際会議

令和3年6月発行

編集・発行：

公益財団法人

京都文化交流コンベンションビューロー

TEL: 075-353-3053

FAX: 075-353-3055

e-mail: [toukei@hellokcb.or.jp](mailto:toukei@hellokcb.or.jp)

URL: [meetkyoto.jp](http://meetkyoto.jp)



Kyoto Convention & Visitors Bureau

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

<https://meetkyoto.jp>

検索

